

⑩ Q. オープンクエスチョン、クローズドクエスチョンについて説明して下さい。

A.

オープンクエスチョン

(開放型質問) : 自分に思ったままの回答が得られる質問

: お腹が痛むのはどのようなときですか (When)

: どの場所がかゆいのですか (Where)

: どのような効き目を持つ風邪薬がほしいのですか (What)

: なぜ病院にいきたくないのですか (why)

: コレステロール値が高めだと健康診断で言われていて
今は食事をどのように工夫していますか (How)

クローズドクエスチョン

(閉鎖的質問) : はい/いいえで答えられる質問

: 頭は痛いのですか。胃は痛いのですか

一般用医薬品・医療機器・健康食品【 P406 】

- ◎患者・顧客が自らすすんで話ができるように工夫する（技能・態度）。
- ◎患者・顧客が必要とする情報を的確に把握する（技能・態度）。
- ◎患者・顧客との会話を通じて薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる（技能）。
- ◎入手した情報を評価し、患者・顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる（技能・態度）。

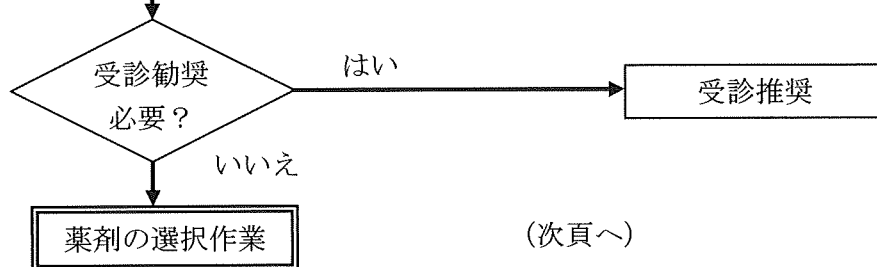
・かぜ薬の場合（例）かぜ薬を求めて来局

確認作業（チェックシート）

基本的な確認事項	相談者からの訴え	使用者の背景の確認
<input type="checkbox"/> 使用者の確認 <input type="checkbox"/> 使用目的の確認 …症状の改善 or 応急的な利用 or 常備 <input type="checkbox"/> 使用経験の確認	<input type="checkbox"/> 鼻水、鼻づまり <input type="checkbox"/> 発熱 <input type="checkbox"/> 悪寒 <input type="checkbox"/> 頭痛 <input type="checkbox"/> せき <input type="checkbox"/> 痰 <input type="checkbox"/> のどの痛み <input type="checkbox"/> 体がだるい <input type="checkbox"/> 筋肉痛、関節痛 <input type="checkbox"/> 目の充血 <input type="checkbox"/> 複合症状など <input type="checkbox"/> 発症経過の確認 <input type="checkbox"/> 症状の度合いの確認	<input type="checkbox"/> 使用者の年齢 …乳幼児 or 小児 or 高齢者 <input type="checkbox"/> 女性 …妊娠中 or 授乳中 <input type="checkbox"/> 病歴 …前立腺肥大、緑内障、 高血圧、心臓障害、 肝障害、腎障害、 消化性潰瘍 甲状腺機能亢進症など <input type="checkbox"/> 現在服薬中の薬 （かぜ症状以外） <input type="checkbox"/> 体質・アレルギー歴 <input type="checkbox"/> 使用中の健康食品等 <input type="checkbox"/> 車の運転・高所での作業 <input type="checkbox"/> 飲酒・喫煙・嗜好品の確認

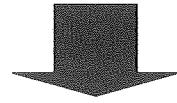
受診の目安の確認

- 発症 5～6 日経ているが快方に向かっていない
- 膿性の鼻水が多いとき
- 唾液を飲み込めないほど痛い
- 肝障害、腎障害が疑われる
- 高熱・・・頭痛がひどい、痰が大量に出る、インフルエンザが疑われる



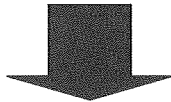
（次頁へ）

(前頁より)

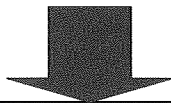


薬剤の選択作業

薬剤選択の検討	剤形の選択	用法
<input type="checkbox"/> 鼻炎 <input type="checkbox"/> 鎮咳去痰薬 <input type="checkbox"/> 解熱鎮 <input type="checkbox"/> 総合感冒薬 <input type="checkbox"/> 漢方薬	<input type="checkbox"/> 散剤 <input type="checkbox"/> 錠剤 <input type="checkbox"/> カプセル剤 <input type="checkbox"/> シロップ剤 <input type="checkbox"/> 貼付剤 <input type="checkbox"/> 塗布剤	<input type="checkbox"/> 1日3回 <input type="checkbox"/> 1日2回 <input type="checkbox"/> 1日1回

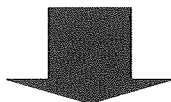


一般用医薬品を選定



服薬指導と情報提供

- ① 効能・効果
- ② 用法・用量
- ③ 予想される副作用並びにそれが発現した場合の対処方法に関する情報提供
- ④ 一般的注意



日常生活に対するアドバイス

- ① 暖かくしてゆっくり休んでください (休養の必要性)
- ② 栄養のバランスが良く、消化の良い食べ物を摂取してください
(規則正しい生活習慣の必要性)
- ③ 嗜好品の影響を受けることがあります。酒、タバコは控えてください

(対話事例)「かぜ薬を求めて来局」

来局者 (50代男性。以下、「客」)「かぜ薬を下さい」

薬剤師 (以下、「薬」)「どのような症状ですか？」

客「昨日から鼻水が出て寒気がします」

薬「他の症状はありませんか？」

客「熱っぽい感じと少し咳が出ます」

薬「いつも飲んでいる風邪薬はありますか？」

客「特にありません」

薬「薬や食べ物で副作用やアレルギーが出たことはありますか？」

客「ないです。なぜですか？」

薬「以前飲んで副作用がでた薬は、また出ることがあります。魚などによるじんましんと同じです。」

客「眠くなったことはありましたけれど」

薬「かぜ薬には鼻水を抑える成分が入っており、服用すると眠くなることがあります。運転や機械類の操作、高い所で仕事することはありますか？」

客「今日は運転しないけれど、明日は運転するかもしれません」

薬「服用したら運転は避けてください」

客「そうですか。事情を説明して代わってもらいます。あと、昼間忙しいので朝と夜だけ飲む薬はありますか」

薬「それでは、こちらの『〇〇持続性カプセル』をお勧めいたします。このかぜ薬は熱と鼻水と咳に効く成分が含まれており、1日2回、朝夕の食後1回2カプセル飲むタイプです。」

客「それを下さい。他に注意することはありますか？」

薬「副作用として、尿の出が悪くなったり、服用後すぐにじんましんなどのアレルギーが出る場合があります。そのような場合には服用を中止して下さい」

客「わかりました」

薬「3日間程、服用しても良くならない場合には、病院で見てもらって下さい。また、当方の電話番号は×××-×××-××××ですので、何かありましたらご連絡ください。休日夜間も対応しています」

客「薬を飲んでいたらお酒はダメですか？」

薬「服用中はアルコールを控えて下さい。タバコを吸われる方は、控えた方が早期の治癒につながります」

客「治るまではどちらも控えます」

薬「薬だけに頼らず、体を十分に休めて、ビタミンや水分の補給も忘れずに行ってください。お大事にどうぞ」

「改訂版、対面話法事例集」平成19年10月より

一般用医薬品・医療機器・健康食品【 P407 】

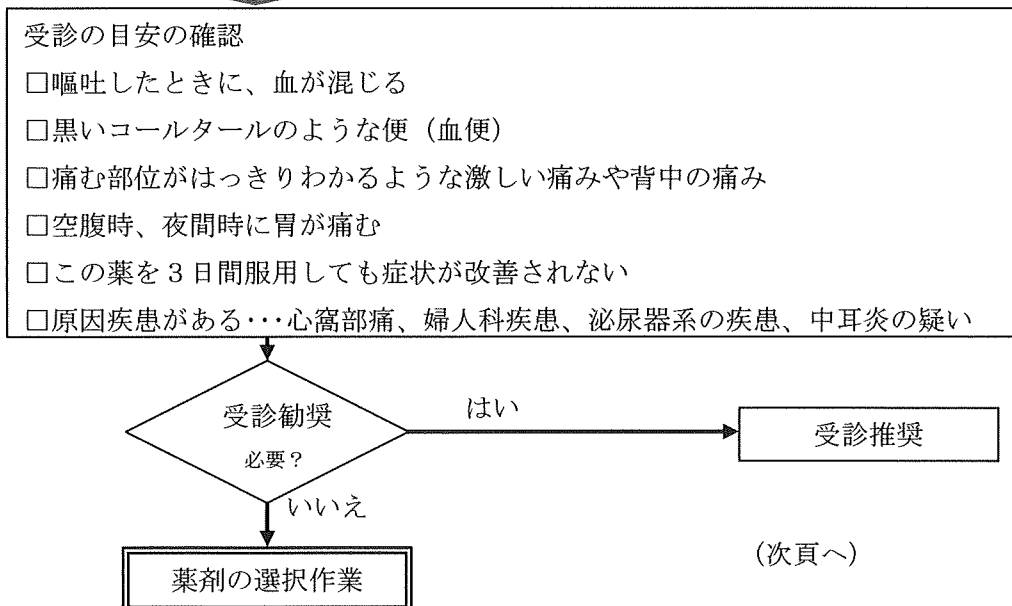
- ◎疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる（技能・態度）。
- ◎セルフメディケーションのための一般用医薬品・医療機器を適切に選択・供給できる（技能・態度）。
- ◎医師への受診勧告を適切に行うことができる（技能・態度）。
- ◎患者・顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。

・胃薬の場合

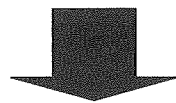
（例）胃薬を求めて来局

確認作業（チェックシート）

基本的な確認事項	相談者からの訴え	使用者の背景の確認
<input type="checkbox"/> 使用者の確認 <input type="checkbox"/> 使用目的の確認 …症状の改善 or 常備 or 応急的な利用 <input type="checkbox"/> 使用経験の確認	<input type="checkbox"/> 胃痛 <input type="checkbox"/> 胸焼け <input type="checkbox"/> 胃もたれ <input type="checkbox"/> むかつき <input type="checkbox"/> ゲップ <input type="checkbox"/> 胃重感 <input type="checkbox"/> 食欲不振 <input type="checkbox"/> 消化不良 <input type="checkbox"/> 食べ過ぎ <input type="checkbox"/> 腹痛 <input type="checkbox"/> 下痢 <input type="checkbox"/> 発症の経過の確認 <input type="checkbox"/> 症状の度合いの確認	<input type="checkbox"/> 使用者の年齢 …乳幼児 or 小児 or 高齢者 <input type="checkbox"/> 女性 …妊娠中 or 授乳中 <input type="checkbox"/> 病歴 …高血圧、緑内障、前立腺肥大 <input type="checkbox"/> 現在服用中の薬 <input type="checkbox"/> 体質・アレルギー歴 <input type="checkbox"/> 使用中の健康食品等 <input type="checkbox"/> 車の運転・高所での作業 <input type="checkbox"/> 飲酒・喫煙・嗜好品の確認

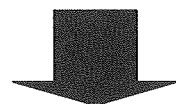


(次の頁)

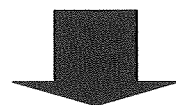


薬剤の選択作業

薬剤の選択の検討	剤形の選択	用法
<input type="checkbox"/> H ₂ ブロッカー <input type="checkbox"/> 胃粘膜修復保護薬 <input type="checkbox"/> 制酸剤 <input type="checkbox"/> 健胃消化剤 <input type="checkbox"/> 鎮痛鎮痙剤 <input type="checkbox"/> 整腸剤 <input type="checkbox"/> 下剤	<input type="checkbox"/> 散剤 <input type="checkbox"/> 顆粒剤 <input type="checkbox"/> 錠剤 <input type="checkbox"/> カプセル剤 <input type="checkbox"/> 液剤	<input type="checkbox"/> 1日3回 <input type="checkbox"/> 1日2回 <input type="checkbox"/> 1日1回 <input type="checkbox"/> 頓用

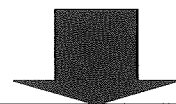


一般用医薬品を選定



服薬指導と情報提供

- ① この薬が効く仕組み
- ② 服用方法、服用時点
- ③ 予想される副作用並びにそれが発現した場合の対処方法についての情報提供
- ④ 一般的注意事項



日常生活に対するアドバイス

- ① 過食、飲酒、コーヒーや刺激物のとり過ぎ、食事を抜くなどの不摂生な食生活は止め、規則正しい食事を取りましょう
- ② ストレスを減らすために、生活習慣の変更に努めましょう
- ③ 定期的に健康診断を受けましょう

(対話事例)「胃薬を求めて来局」

来局者(40代男性、以下、「客」)「胃が痛むので、何か良い胃薬はありませんか」

薬剤師(以下、「薬」)「胃の痛みはいつごろからですか？」

客「最近、お腹が空いたときに痛みます」

薬「他に気になることはありませんか？」

客「ゲップをすると、酸っぱいものが込み上がってきたり、むかつきがあります」

薬「前に同じような症状を経験されたことはありませんか？」

客「夜遅くに食事をすると、もたれや胸やけをおこすこともありましたが、痛みはありませんでした。」

薬「その時には、どんな薬を飲んでいましたか？」

客「『〇〇胃腸薬』を飲んでいました。今回もそれを飲んでみたのですが、痛みがとまらないのです」

薬「今、『〇〇胃腸薬』以外に、何か飲んでいる薬はありますか？また、これまでに薬が合わなかったりしたことはありませんか？」

客「どちらもありません。たまに栄養ドリンクを飲むくらいです」

薬「現在、喉の痛みや咳、熱などはありませんか？また、最近になって体重が減ったことがありますか？」

客「ないです」

薬「それでは、胃酸の出過ぎを抑え、胃粘膜の修復を早めるH₂ブロッカーのうち、『〇〇錠』をお勧めします」

客「では、それを下さい」

薬「この薬は1日〇回で1回〇錠です。もし、服用されて体がだるくなったり、熱や発疹がでるようなことがあれば、すぐに飲むのを中止して当方に連絡ください。電話番号は×××-×××-××××です。休日夜間も対応しています」

客「ありがとう。この薬はいつまでも飲み続ければ良いですか？」

薬「症状が治ったら、飲むのを止めてください。また、この薬を3日間服用して症状が改善されない場合は、ご相談下さい。必要によっては医療機関への受診をお勧めします」

客「わかりました。」

「改訂版、対面話法事例集」平成19年10月より一部改変

参考図書

図書名	出版社
(1) 今日の治療薬	南工堂
(2) 治療薬マニュアル	医学書院
(3) 薬局・薬剤師のための調剤事故防止マニュアル	薬事日報社
(4) 錠剤・カプセル剤粉砕ハンドブック	じほう
(5) 麻薬・向精神薬・覚せい剤管理ハンドブック	じほう
(6) 薬局薬剤師のための薬学生実務実習指導の手引き	日本薬剤師会
(7) Q&A 薬局・薬剤師のための責任—トラブルの予防・解決—	新日本法規出版
(8) 保険薬局業務指針	薬事日報社
(9) 保険調剤Q&A	じほう
(10) 薬局製剤業務指針	薬事日報社
(11) 作ってみよう薬局製剤	薬事日報社
(12) 続・作ってみよう薬局製剤	薬事日報社
(13) 調剤指針	薬事日報社
(14) 日本薬局方	じほう
(15) 大衆薬事典	じほう
(16) 病院・薬局実務シリーズⅠ 内服薬調剤 基本と実践	じほう
(17) 薬局薬剤師実務研修テキスト 上	薬事日報社
(18) 薬局薬剤師実務研修テキスト 下	薬事日報社
(20) 病院・薬局実務実習Ⅰ 病院・薬局に共通な薬剤師業務	東京化学同人
(21) 病院・薬局実務実習Ⅱ 病院・薬局にそれぞれに固有な薬剤師業務	東京化学同人

*各種最新版を使用

5) 地域で活躍する薬剤師

在宅医療【 P501 】

- ◎ 訪問薬剤管理指導業務について説明できる。
- ◎ 在宅医療における医療廃棄物の取り扱いについて説明できる。

「薬剤師による食事・排泄・睡眠・運動を通じた体調チェック・フローチャート」(日薬HP)

「同 解説と活用」(日本薬剤師会作成)

「高齢者ケア薬剤管理マニュアルーADLと薬剤ー」(日本薬剤師会編著)

薬局実務実習事前学習用教材(2007年度改訂版)

《指導のポイント》

- ① 在宅医療を受けている患者の居宅等における調剤について説明する。
- ② 訪問薬剤管理指導業務の主な流れを説明する。
- ③ 医療保険(在宅患者訪問薬剤管理指導)と介護保険(居宅療養管理指導)について制度上の違いを含めて説明する。
- ④ 医療廃棄物の処理の流れと薬局における医療廃棄物の取り扱いに関して説明する。

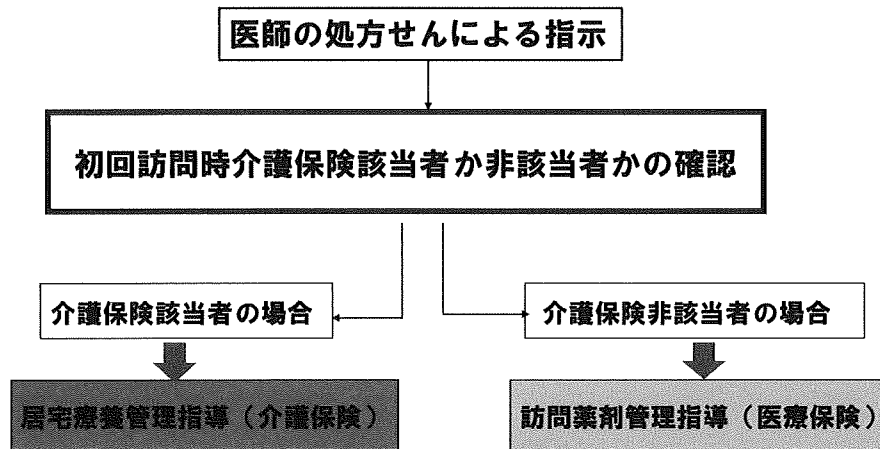
《補足と解説》

薬剤師の在宅医療における役割

1. 処方せんによる調剤、訪問薬剤管理指導(服薬指導、服薬管理、薬歴管理、医師・看護師等との情報交換などの連携)、薬剤等の患者宅への配送
2. 不要薬剤等の廃棄物処理(指導)
3. 在宅医療用機器・材料等の供給
4. 高度在宅医療に必要な特殊製剤等の調剤・使用指導や医療機器の使用指導
5. 患者・介護者のニーズの把握および関連情報の提供
6. 在宅介護用品、在宅福祉機器等の供給・相談の応需
7. 保健・医療・福祉関係者への医薬品情報等の提供
8. 患者の住環境等を衛生的に保つための指導・助言
9. 患者・介護者等に対する啓発活動

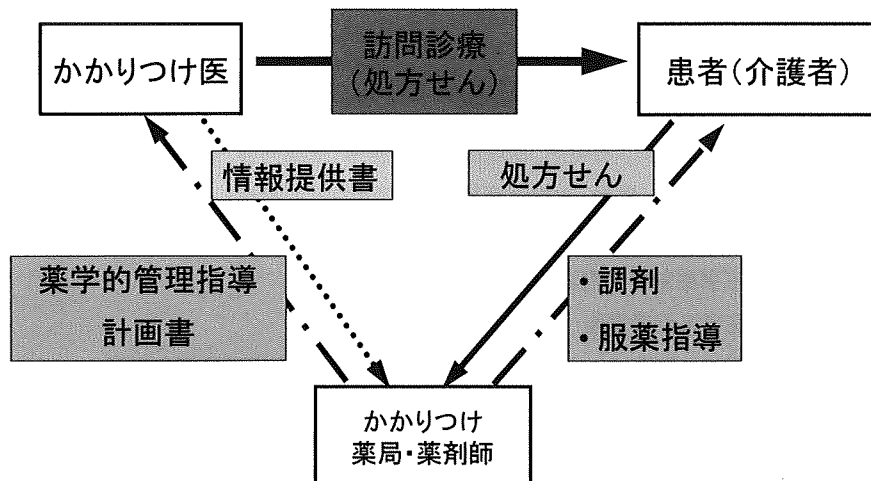
・調剤場所の見直し(薬剤師法第22条 2007年4月)

訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導のしくみ



- ・薬学的管理指導計画作成と管理・指導

訪問薬剤管理指導の流れ



- ・状況報告
- ・管理指導計画の見直し
- ・在宅患者訪問薬剤管理指導 — 社会保険事務局への届出
- ・居宅療養管理指導 — みなし指定
- ・産業廃棄物業者との契約

《させてみようQ&A》

- ① 在宅医療を受けている患者の居宅等における調剤について述べよ。

- ② 訪問薬剤管理指導業務の主な流れと、薬剤師が行なう業務を述べよ。

- ③ 在宅患者訪問薬剤管理指導と居宅療養管理指導を制度上の違いを含めて述べよ。

- ④ 医療廃棄物の種類と処理法について述べよ。

◎ 薬剤師が在宅医療に関わることの意義を指導薬剤師と話し合う。(態度)

「薬剤師による食事・排泄・睡眠・運動を通じた体調チェック・フローチャート」(日薬HP)

「同 解説と活用」(日本薬剤師会作成)

「高齢者ケア薬剤管理マニュアルーADLと薬剤ー」(日本薬剤師会編著)

「在宅介護と関連用品」(日本薬剤師会編集)

《指導のポイント》

- ① 薬剤師が在宅医療に関わることの意義を話し合う。
- ② 健康介護まちかど相談薬局について説明する。
- ③ 在宅医療において、他職種との連携および他職種の業務内容を理解しておくことの必要性を説明する。
- ④ 介護用品、福祉用品、医療機器、医療材料等について説明する。

《補足と解説》

- ・「まちかど相談薬局」の店頭プレート
- ・在宅ケアチームの構成
- ・在宅患者のQOLの構成要素
身体面 精神・心理面 環境・社会面

《させてみようQ&A》

- ① 薬剤師が在宅医療に関わることの意義を述べよ。

- ② 在宅ケアチームを構成する職種を列挙し、連携の重要性を述べよ。

◎ 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。

医療安全のための薬局薬剤師と病院薬剤師の連携に関する提言（日薬HP）

《指導のポイント》

- ① 薬物療法の継続性について薬局薬剤師と病院薬剤師の役割と連携について説明する。
- ② 地域で行なわれている薬局薬剤師と病院薬剤師の連携の実例を説明する。

《補足と解説》

患者を中心とした薬物療法を実践するための薬局薬剤師と病院薬剤師の位置づけを理解させる。

- ・「お薬手帳」の活用と役割
- ・在宅医療 — 退院時ケアカンファランス

《させてみようQ&A》

- ① 薬局薬剤師と病院薬剤師の業務について具体的に述べよ。

- ② 薬物療法における薬局薬剤師と病院薬剤師の連携の重要性について、具体例をあげてよ。

- ◎ 当該地域における休日、夜間診療と薬剤師の役割を説明できる。

《指導のポイント》

- ① 当該地域における休日、夜間の診療体制を説明する。
- ② 自身の薬局で行なっている休日、夜間の対応を説明する。
- ③ 地域薬剤師会で行なっている休日、夜間の対応を説明する。
- ④ 休日救急診療所等の見学

《補足と解説》

- ・ 休日、夜間診療と薬局の輪番
- ・ 休日夜間診療所
- ・ 転送電話等
- ・ 休日、夜間薬局として輪番で対応
- ・ 休日夜間診療所への輪番勤務
- ・ 休日救急診療所等の見学への地区担当者依頼

《させてみようQ&A》

- ① 当該地域における休日、夜間の診療体制を述べよ。

- ◎ 当該地域での居宅介護、介護支援専門員などの医療福祉活動の状況を把握できる。
(知識・技能)

《指導のポイント》

- ① 介護保険制度に関する知識を確認し、制度の概要を説明する。
- ② 介護支援専門員（ケアマネージャー）の役割を説明する。
- ③ 地域における主な社会資源について説明する。
- ④ ケアマネジメントについて説明する。

《補足と解説》

介護保険制度の概要と、介護支援専門員の役割を理解させる。

介護保険制度のあらまし

1. 老後最大の不安要因である介護を社会全体で支え、高齢者が自立した生活を送れる仕組みを創設する
2. 社会保険方式により給付と負担の関係を明確にし、国民の理解が得られやすい仕組みを創設する
3. 現在の縦割りの制度を再編成し、利用者の意思でサービスの利用を選択でき、様々な主体から保健医療サービス・福祉サービスを総合的に受けられる仕組みを創設する。
4. 介護を医療保険から切り離し、社会的入院（入院治療を必要としない高齢者が家族の事情などから長期間入院している）の解消の条件整備を図るなど社会保障構造改革の第1歩となる制度を創設する。

介護保険制度のめざすもの

1. 高齢者介護に対する社会的支援
2. 高齢者自身による選択
3. 在宅介護の重視
4. 予防・リハビリテーションの充実
5. 総合的・一体的・効率的なサービスの提供
6. 市民の幅広い参加と民間活力の活用
7. 社会連帯による支え合い
8. 安定的かつ効率的な事業運営と地域性の配慮

介護支援専門員（ケアマネージャー）

介護保険制度において、居宅介護支援事業者（ケアプラン作成機関）、および介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型病床群等）において、介護サービス計画（ケアプラン）を作成する専門職です。

《させてみようQ&A》

- ① 保険制度について述べよ。

- ② 介護支援専門員について述べよ。

◎ 緊急災害時における、当該薬局および薬剤師の役割について説明できる。

「薬局・薬剤師の災害対策マニュアル」（日薬HP）

「災害医療における薬剤師の役割」（日本薬剤師会編）

当該都道府県・市町村防災計画

《指導のポイント》

- ① 当該地域の災害時における薬局・薬剤師の活動を説明する

《補足と解説》

山形県薬剤師会災害対策マニュアル

第1 マニュアルの位置づけ

このマニュアルは、「災害時医薬品等供給マニュアル」（平成18年3月29日山形県制定）及び「災害時における医療救護活動に関する協定書」（平成18年12月8日山形県と締結）に基づいて、大規模災害が発生した場合の（社）山形県薬剤師会（以下、「県薬剤師会」という。）がとるべき対応策等について、必要な事項をまとめたものである。

第2 適用災害

このマニュアルを適用する災害は、県に災害対策本部を設置する基準（震度6弱以上の地震等）を満たす規模の災害（このマニュアルにおいて「大規模災害」という。）とする。

なお、それ未満の災害においては、必要に応じこのマニュアルに準じて行動するものとする。

第3 県薬剤師会災害対策本部の設置

- 1 大規模災害時には、県薬剤師会に情報収集・伝達・指揮命令の拠点となる県薬剤師会災害対策本部を設置する。
- 2 構成は、次のとおりとする。

本部長	会長
副本部長	副会長及び専務理事
本部員	常務理事、理事及び事務局長
- 3 設置場所は、原則として県薬剤師会館とするが、県薬剤師会館が災害を受け、使用が困難と認められる場合には、仮設の臨時事務所等とする。
- 4 任務は次のとおりとする。
 - (1) 必要な情報の収集及び支部、県災害対策本部等関係機関との連絡調整
 - (2) 薬剤師派遣についての県災害対策本部及び支部との連絡調整
 - (3) その他必要な事項
- 5 情報の伝達は、次の事項に留意して行うものとする。

- (1) 情報の伝達は、電話連絡の上、ファクシミリにより行うことを基本とする。
 - (2) 地域において独自の緊急連絡網が確立している場合は、当該連絡網を有効に活用するものとする。
 - (3) ファクシミリや通常の電話が使用できない事態になった場合は、県との連絡を最寄の行政機関を介して行うなど、柔軟な対応をとるものとする。
- 6 県薬剤師会内の連絡網は、別図に準拠するものとする。

第4 支部災害対策本部の設置

- 1 県薬剤師会災害対策本部が設置された場合、必要に応じて関連支部に支部災害対策本部を設置する。
- 2 構成は、次のとおりとする。

本部長	支部長
副本部長	副支部長
本部員	理事
- 3 設置場所は、原則として支部事務局とする
- 4 任務は次のとおりとする。
 - (1) 必要な情報の収集及び支部、県災害対策本部等関係機関との連絡調整
 - (2) 薬剤師派遣についての連絡調整及び対応
 - (3) その他必要な事項

第5 危機管理室の設置

- 1 災害発生等に対応するため、県薬剤師会に危機管理室を設置する。
- 2 危機管理室の室長は専務理事、副室長は事務局長とする。
- 3 危機管理室に災害対策委員会を設置する。

第6 支部災害対策担当者の配置

- 1 災害発生等に対応するため、各支部に災害対策担当者及び災害対策副担当者を設置する。
- 2 災害対策担当者は、副支部長の中から、災害対策副担当者は、支部会員の中から支部長が任命する。

第7 派遣可能薬剤師の登録

- 1 災害発生時に迅速、かつ3日間以上連続で出勤できる薬剤師を各支部で2名登録しておくものとする。
- 2 登録の方法は、別に定めるものとする。

第8 携行品の常備

県薬剤師会は、派遣する薬剤師の携行品等を常備しておくものとする。

[平成20年12月14日制定]

《させてみようQ&A》

- ① 薬局としての防災対策や、緊急災害における薬局薬剤師の役割、活動を述べよ。

◎ 学校薬剤師の職務を見聞し、その役割を説明できる。

詳解「学校環境衛生の基準」（日本学校薬剤師会編）

「学校環境衛生管理マニュアル」（文部科学省） 等

《指導のポイント》

学校保健の管理を実践するための、具体的な項目を説明し、学校薬剤師の主な職能を理解させる。
また、所属長（校長、理事長等）の許可を得た上で同行し、実際に学校薬剤師活動を体験させる。

- ① 薬剤師の社会的位置づけを理解させる（学校教育法施行規則、学校保険法 16 条）。
- ② 学校薬剤師の主な職能を理解させる。（学校保険法施行規則第 22 条の 2、及び 25 条）。
- ③ 学校保健安全計画に基づいて行なう定期環境衛生検査、臨時環境衛生検査、及び日常点検の意義を説明する。
 - ・ 気体検知管
 - ・ 照度計 等
- ④ 学校及び環境衛生検査で使用する薬品の管理について理解させる。
- ⑤ 実際の定期環境衛生検査及び臨時環境衛生検査を見学し、一部体験させる。

《補足と解説》

・ 学校薬剤師の社会的位置づけの歴史

昭和 29 年 7 月 学校薬剤師の法制化

「学校教育法施行規則」の中に学校薬剤師の性格、職務が定められた。

昭和 33 年 4 月 学校保健法 16 条の制定

「…大学以外の学校には、学校歯科医及び学校薬剤師を置くものとする。」

・ 学校薬剤師の主な職能

学校保健法施行規則第 22 条の 2

法第二条の環境衛生検査は、他の法令に基づくもののほか、毎学年定期に、次の各号に掲げる項目について行わなければならない。

- 一 飲料水及び水泳プールの水の水質並びに排水の状況
 - 二 水道及び水泳プール（附属する施設及び設備を含む。）並びに学校給食用の施設及び設備の衛生状態並びに浄化消毒等のための設備の機能
 - 三 教室その他学校における採光及び照明
 - 四 教室その他学校における空気、暖房、換気方法及び騒音
 - 五 その他校長が必要と認める項目
- 2 前項各号に掲げる検査の項目のうち、第四号に掲げるものは、地域の実情等に応じ検査の項目から除くことができる。
 - 3 学校においては、必要があるときは、臨時に環境衛生検査を行うものとする。